

IPM関連剤

ナシヒメコン[®]

(Z)-8-ドデセニル=アセタート…………… 87.5%

種類名／オリフルア剤
農林水産省登録／第22781号
(信越化学工業登録)

毒性／普通物*
有効年限／1.5年
危険物表示／4－3石
包装／50本×60

特 長

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し、害虫の発生を抑制することを目的としています(直接の殺虫作用はありません)。
- 殺虫剤への感受性が低下した害虫にも有効です。
- 本剤の有効成分は微生物等により容易に分解されるため、環境にやさしい防除剤です。
- 作物への残留も心配なく、輸出用作物にも使用できます。

適用害虫と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	使用目的	適用害虫名	10a当り使用量	使用時期	使用方法
果 樹 類	交尾阻害	ナシヒメシנקイ スモモヒメシנקイ	50～100本 (23g/100本製剤)	成虫発生 初期から 終期	ディスペンサーを対象作物 の枝に挟み込み、又は 巻き付け設置する

上手な使い方

1. 配置

- 圃場の立地条件(傾斜)、周囲の状況や風向き等を考慮してください。そして、使用する8割程度を圃場全体にほぼ均等に使用し残りの2割程度を圃場内周辺に使用してください。
- 果樹のナシヒメシנקイに対してナシヒメコン単用の場合
本剤単用の使用ではハマキムシ類、モモシנקイガに対する効果はないので(本剤はこれらの有効成分を含まない)、これら害虫による被害が発生する可能性が高くなります。この場合、ナシヒメコン設置と同時にハマキムシ類、モモシנקイガに登録のあるフェロモン剤との併用設置が望ましいです。

2. 取り付けの高さ

- 目通りの高さ(約150cm程度)に使用してください。

3. 取り付け方法

- 細い枝では輪にして、輪の中に通すか(図1)、少し太い枝ではそのまま巻き付けてから、一端を輪の中にくぐらせて固定してください(図2)。(強く引っ張り固定すると、端が切れるおそれがありますので注意してください)

図.1

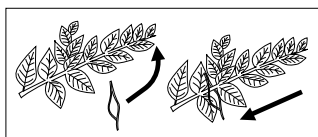
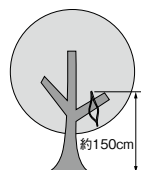
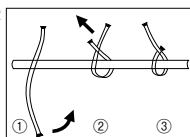


図.2



4. 放任園・庭木対策

- 圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意してください。ある場合は、あらかじめ防除を徹底してください。また、周辺にバラ科果樹等がある場合にはフェロモン剤を設置してください。

使用にあたって

■使用上の注意

- 本剤は、ナシヒメシנקイおよびスモモヒメシנקイの各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的としているので、対象害虫の成虫発生初期から比較的広範囲な地帯で使用することが望ましいです。

- 対象害虫が高密度に存在する場合には状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用することが望ましいです。
- 本剤は樹木等に巻き付け、対象地帯に均一になるように設置してください。また、標準的な使用量は、10アール当り50～100本ですが、立地条件や風向、傾斜等により効果がフれる場合があるので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、特に周辺部に多めに設置することが望ましいです。
- 発生初期からの使用は100本、他のフェロモン剤への追加処理として使用する場合は半量（50本）が標準的な使用量ですが、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、多めに設置することが望ましいです。
- 本剤は飛来した既交尾雌には効果がないので、特にスモモヒメシシクイを対象とする場合には、寄生樹種を移動する場合があるため、発生源を確認して使用することが望ましいです。
- 急傾斜地、風の強い地帯等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では使用しないでください。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散しますので、必ず使用直前に開封し、なるべく使いきってください。やむをえず残った場合には密封し、5℃以下で冷蔵保管してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、火気をさけ、直射日光があたらない冷暗所（5℃以下）に保管してください。

本資料の記載内容は2025年10月1日現在の登録内容に基づいています。